

令和6年7月1日

以前に読んだ記事で、「流星課長」というマンガが紹介されていました。1990年代のマンガなのですが、気になったので古本として買って読みました。

マンガの舞台が東京の京王線新宿駅、ご存知の方はあまりおられないと思いますが、ここは東京でも有数の混雑駅で、18時から19時ともなると激混み、10分おきに特急が出発するのですが、1つ先2つ先の特急のために並んで皆さんが列をなしています。私もかつてここを利用して通勤してまして、次の電車を待たずに座って帰るなんてことはどう考えてもできないと思っていたのですが、この流星課長は仕事帰りの京王線新宿駅から必ず座って帰るのです。

ここはマンガだからなせる業ではあるのですが、流星課長は駅の人混みをすり抜けて、上から横から、座席の隙間をねらって座る。電車の長椅子はたいてい7人掛けなのですが、6人座ると僅かな隙間ができるわけですね。その隙間にスッと入ってお尻をねじ入れるというわけです。度々、ライバルが現れて席の争奪戦が繰り広げられます。

驚くのは、このテーマで1冊のマンガが成り立っているということです。駅で電車の席に座るというだけですからね。さらに驚くのは、このマンガが2002年に映画化されたということです。まあ短編映画ですけども。

そして、またまた驚くのは、同じようなテーマで、今年3月に、某メガバンク系の調査会社さんからレポートが出されていることです。題しまして、「電車の中で座るための戦略とアクションプラン」です。

このレポート、94ページに及ぶ大作なのですが、分析から戦略に至るまで内容が秀逸で、全体の通勤事情といったマクロ分析も見事なのですが、打ち出す戦略もなかなか面白いものです。ブルーオーシャン戦略とか、鳥の目・虫の目・魚の目・こうもりの目戦略とかいろいろ挙げられています。ブルーオーシャン戦略はなんとなく分かりますよね。乗客の少ない時間帯や車両をめがけて乗車する。あと、座っている乗客が次の駅で降りる直前にやる行動、例えばカバンの持ち手を握ったりスマホを片付けたりした時にその乗客が立ち上がった後をねらう戦略等、具体的な戦略が面白いです。

そして、これらの戦略からアクションプランを個々に立てていくわけですが、このレポートの最後の方に、「アクションプランからPDCAを回していきましょう」みたいな記述がありました。こういうテーマでもPDCAというのは求められるのですね。何事をやるにしても、しっかりプランを立ててちゃんと準備してPDCAを回していくというのは大事なことです。

大阪は東京ほど通勤事情が厳しくないとは思いますが、皆さんの中で、仕事帰りの通勤電車で座って帰りたいと切実に願う方がおられましたら、ぜひこのレポートを読んでPDCAを回していただきたいと思います。

以上

代表取締役社長 角高哲治